

地域の未来を担うひとづくり ～社会教育委員の役割とは～

1. 地方創生と「教育」

- (1) コミュニティからソーシャルへ
 - コミュニティデザインからソーシャルデザインへ ⇒「地縁」から「志縁」へ
- (2) 「地域自治組織」が新たな地域づくりの核に?!
 - 地域の課題を自分たちで解決… ⇒益田市では、地域の様々な団体組織を「地域自治組織」に再構築
 - 「課題」ばかりで人は元気になるのか? ⇒活動作りの中で「課題」を解決
- (3) 「地縁」の薄まりの中、地域が結集できるのか?
 - 「地縁」の再構築をいかに図るか…、「無縁社会」をいかに… ⇒「子縁」&「未来の担い手」を接着剤
- (4) ひとを繋ぎ循環させる ～「今のひと」と「未来のひと」をつなげる!
 - 「ライフキャリア教育」を基盤に! ⇒将来「益田で生きる」ことを選ぶ、「種まき」を!

2. 益田市の事例から…その1

- (1) 豊川公民館では…
 - 地域ぐるみで子どもを育てよう! ～「豊川地区つろうて子育て推進協議会」の展開
 - 益田市が目指す『地域学校協働本部』とは… ⇒コミュニティがベースになる、地域主体(主導)型
- (2) 小学校を地域の拠点に! ⇒豊川小学校をコミュニティスクールに!
 - 学校再編計画の中で中山間の小学校と公民館は… ⇒まずは、小学校の中に公民館を!
 - 「今後の小中学校の在り方に関する基本方針」(H30.12 策定) ⇒中山間の小学校を地域の拠点に
- (3) 子どもが動けば大人が動く! ⇒子ども育ちの場を「学校だけ」から「地域へ」広げる
 - 「少年は必要とされて初めて大人になる」ジュン・スタインバック(米ノーベル文学賞作家)

3. 益田市の事例から…その2

- (1) 「北仙道の明日をつくる会」による住民主体のつながりづくり&活動づくり ⇒地域自治組織づくり
 - ⇒つながり部会: 中高生とのつながりづくり
 - 課題解決部会: 困りごと開設、草刈隊
 - 定住促進部会: 空き家調査と情報発信 5名の移住者(山口、岡山、広島、神奈川、滋賀)
 - ⇒人口 473人 197世帯 高齢化率 45.7% ⇒ 保小中保護者世帯 25世帯
- (2) なぜ北仙道が動いたのか… ⇒「子縁」と「若者」が地域の大人をつなぐ!
 - ⇒小学校の統廃合により子どもとの縁の切れた地域住民
 - ⇒新しい公民館長による、全児童参加の「通貨学合宿」開催
 - ⇒定期的な子どもと住民の交流の場開催(レクリエーションを中心に)
 - ⇒1ターンの若者移住 ⇒地域自治組織に参画 ⇒会議の変革(教室型から対話型へ)
 - ⇒役員が元気に! ⇒話し合いの活性化 ⇒行事の参画率アップ
 - ⇒中学校のカタリ場に地元中高生と住民が参加 ⇒公民館でキャンプ&リノベーション
 - ⇒総会には半数が女性⇒学校帰りに公民館に立ち寄る中学生
 - ⇒月1回の小中高生と大人の学びと活動の場「KITANOMA」の実施⇒新たな夢を!

4. 益田市の事例から…その3

- (1) 「ひとづくり」が施策の中心に!
 - 地方創生と総合戦略と「ひとづくり」 ⇒「今」の担い手と「未来」の担い手をつなぐことが持続可能なひとづくりに!
- (2) 「益田市ひとづくり協働構想」の策定 H28
 - 「未来の担い手」と「地域づくりの担い手」と「産業の担い手」 ⇒庁内の組織が明文化
- (3) 持続可能な地域づくりのためには持続可能なひとづくりを!
 - 3つの担い手の一体的な取り組み ⇒子どもたちに「人生の予行練習」を
- (4) 「ひとづくり」は「ひとつなぎ」
 - つながるためには「協働」 ⇒その前提には「対話」が! ⇒「対話」はスキル!

5. 「ひとつづくり」で社会教育施策を市の施策へ…

- (1) 「つろうて子育てプロジェクト (TKP)」への集約 ⇒「子縁」を「志縁」に、そして、ネットワークに
- 「地縁」の再構築を「子縁」で！
 - H11 から「学社融合」⇒H16 から「ボランティアハウス (地域子ども教室)」⇒H23 から「教育協働化」
 - H17 から、全県での「ふるさと教育」:の実施 (小中全クラス 35 時間/年間 実施)
 - 学校の教育活動への地域の方の参画から、学校外での「子どもの育ちの場」作りへ
⇒ 子どもの地域貢献活動 in (保幼) ⇒about (小) ⇒for (中) ⇒with (高)
 - 全小学校区で「〇〇地区つろうて子育て協議会」の設置 ⇒ 具体的な活動の場づくり推進
⇒コミュニティスクールの基盤にも ~学校運営協議会のメンバーは「つろうて」から推薦
- (2) 中山間地域の地域づくりの拠点は… ⇒**中山間地域の小学校を地域の拠点施設に!**
- 「学校の適正規模」?+「地域振興&人口拡大 or 維持」?+「公共施設整備計画」?
 - 「益田市新学校宣言」 ⇒ 小学校を「子育て拠点」に! ⇒ コミュニティの拠点に!
⇒H28 豊川小学校に、『社会教育コーディネーター』を設置
⇒「つろうて子育て協議会」のメンバーが「地域学校協働本部」のメンバーに!
⇒H30 「社会に開かれた教育課程」の実践加速 ⇒**学校教育と社会教育の往還の数の増大!**
⇒R3 真砂地区の拠点施設建設に際し、その中に真砂小学校を設置
- (3) ひとつづくり=ふるさと教育+ライフキャリア教育 が次世代を育てる!
- H27 「益田市総合戦略策定」
 - H28 「益田市ひとつづくり協働構想」「仕事」&「地域づくり」&「未来」の担い手
「益田市未来を担うひとつづくり」策定
 - R3 第6次益田市総合振興計画…「ひとつづくり」と「協働」がすべての目標達成のための横断目標へ
 - 「ワークキャリア教育」から「ライフキャリア教育」へ ⇒ 仕事探しから、いかに生きるかへ
 - 「ロールモデル」との出逢いと対話 ⇒ 対話が人をつなげる
 - 「益田版カタリバ」、「新・職場体験」、「夢の教室」、「中高生の地域貢献&課題解決活動」など
⇒**地域振興部局、産業部局、学校教育課が、「ひとつづくり」に主体的に動き出す!**
- (4) R2.4月一般社団法人「豊かな暮らしラボラトリー (ユタラボ)」の設立
- 10名の1ターンの若者が、中間支援団体として、ひとつづくり&地域づくりに爆走中!
- (5) 「ひとが育つまち益田フォーラム2022」の開催 ~2022年3月5日(土)~

6. これからの「教育」と地域づくり…

- (1) 「今」、学校は?!
- 「キャリア教育」と「ふるさと教育」 ⇒**学校の教員だけでは社会を生き抜く力は醸成できない**
⇒教員しかしたことがない教員、校区に住んだことのない教員、
地域活動に参加したことがない教員、市民活動 (ボランティア) に参加したことがない教員
 - 小中高等学校の危機? ⇒**「ロールモデル」との出逢いの減少!**
 - たくさんさんの「ロールモデル」との出逢いと対話が必要!
- (2) 「社会に開かれた教育課程」のカギは… ⇒**子どもはどこで育つの? 学校外の育ちの場を豊かに!**
- ⇒今こそ社会教育側の頑張りが! ⇒「キャリアパスポート」が鍵
⇒GIGA スクールにおいて、益田市は一人1台のタブレットを学校&家庭&地域で活用
- (3) 益田市の「ひとつづくり施策」の成果は…
- ①庁内の部局間の**横ぐし**を入れることができたこと
 - ②官民の協働が進んでいること
 - ③中学生が学校外で公民館を拠点とし、地域の人と地域活動をどんどん作っていること
 - ④高校生の探求学習&総合的な学習の時間に、行政や中間支援団体 (一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー:通称ユタラボ) が関わっていること
 - ⑤高校生の学校外での活動が活発になり、ユタラボに市内高校生の10%が関わっていること
 - ⑥保幼小中高公民館民間団体等でコンソーシアムをつくることで、地域づくり・産業の担い手育成について一体的に取り組んでいること ⇒**情報交換・協働体制・予算内容の共有**
 - ⑦「ひとつづくり」のベースに「対話」を位置づけ、「対話」を生かした益田版カタリバ等を小中高公民館民間団体等で実施、積み重ねることで、関係づくり、活動作りがスムーズにできていること
 - ⑧益田に将来住みたいと答える成人者が70%となったこと
 - ⑨子どもたちに関わった大人たちの心に灯がともり、活動の主体者へと変化できていること

◆お問い合わせ nobuchin4319@gmail.com

Facebook もしています! 「大畑伸幸」、「ネイチャーキッズ寺子屋」

◆「ひと」に焦点を当てたホームページの開設

「ひとが育つまち 益田」or「ますだのひと」で検索